



# 新・みやぎ・シー・メール第42号

—Miyagi Sea Mail—

発行：令和3年6月17日

宮城県水産技術総合センター 〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6

TEL: 0225-24-0159 FAX: 0225-97-3444

## 令和2年度漁期のノリ養殖について

### 企画・普及指導チーム

本県の令和2年度漁期のノリ養殖については、生産量は約3.7億枚、金額は約34億円、平均単価は9.8円/枚となり、それぞれ対前年比で102.5%、74.9%、73.1%と、生産額と平均単価が前年を大きく下回る結果となりました。

前年漁期までは、1枚あたり10円を超える高単価で推移していましたが、令和2年度漁期は漁期後半の品質低下により単価が落ち込みました。(図1)。

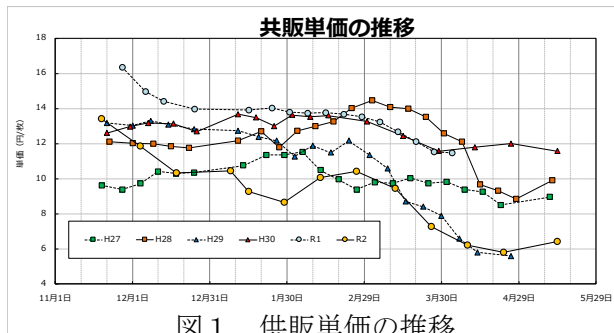


図1 共販単価の推移

ここからは、令和2年度漁期を振り返ってみます。

宮城県では、陸上で種網に採苗する陸上採苗と洋上で行われる野外採苗が行われています。

松島湾内への張り込み解禁は9月20日からで、水温が採苗・育苗の目安となる23℃以下になったことを確認して張り込みを開始していきます。令和2年度漁期は、早い地区では9月21日から種網の張り込みが行われましたが、台風の接近を懸念し、張り込みのピークは9月25日～28日となり、その際の水温は23℃以下でした。予報に反し台風の影響は少なく、張り込みは9月29日までに完了し、育苗が行われました。

育苗後は、一部は沖側の各漁場に張り出して秋芽網として年内に収穫されます。残りの網は干出により乾燥をかけた後に冷凍庫に保管して、秋芽網の後に漁場に張り出して冷凍網として年明けから収穫されます。

秋芽網の沖出しは10月中旬から開始され、10月下旬には初摘採(刈り取り)が実施されました。

漁期を通じて若干の病障害が見られましたが、生産への影響は軽微でした。

冷凍網の出庫は、12月中旬頃から始まり、目立った病障害は確認されませんでした。例年、2月頃から多くの漁場で栄養塩不足による色落ちが目立ち始めますが、今漁期についても、栄養塩濃度は色落ちの目安としている3μg-at/lより低位で推移し(図2)、各漁場で色落ちが目立ったことが、品質に影響を及ぼしたと考えられます。

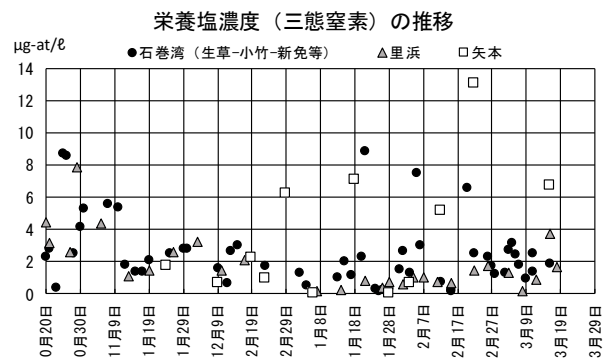


図2 栄養塩濃度(三態窒素)の推移

宮城県はノリ養殖の北限となる生産地ですが、近年は温暖化の進行により、漁師さんの長年の経験や勘が通用しなくなってきました。そのため、水温、栄養塩濃度等の漁場データに基づき、張り込み時期及び摘採時期等を見極め、少しでも品質の良いノリを生産する必要があります。当センターでは宮城県漁協等関係機関と協力しながら漁場調査を行い、ノリ養殖通報として生産者へ情報を提供しています。

令和3年度漁期からは、水温塩分自動観測ブイにより育苗期の環境情報がリアルタイムに確認できる予定なのでそれらのデータを有効に活用してもらいたいと考えています。

宮城県水産技術総合センター

ホームページ URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mtsc/>